

小売業の情報収集機能 POSシステム

消費市場の変化が激しく、商品サイクルがますます短くなる小売業において、適正在庫、省力化など諸問題解決の有力な手段として、我が国でもPOS (Point of Sales) システムが注目を浴び、実験されている。

これはPOSの言葉どおり顧客と店員が接する販売時点で発生する、あらゆるデータを迅速、且つ正確にとらえ、機敏に処理して明日の営業活動に結び付けようとするもので、売場の端末は、レジスタと電子計算機端末の二つの働きをする。そして、収集データは全く人手を介せずに、電子計算機に運ばれて、必要とするすべての報告書が自動的に作成される。

POSシステムは、商品回転率の向上、マークダウン率の減少及び在庫維持費の軽減に寄与し、売場と後方部門の省力化、省脳化に大きな効果をもたらす。これは、規模の大きなアメリカ小売業の発展のなかで必然的に生まれたものであるが、中でもシンガー社が開発したMDTS (Modular Data Transaction System)* の優れた機能は高く評価され、シアーズ、ローバックをはじめ欧米の大手小売業から受注し、世界最大のシェアを誇っている。

シンガー社は、周知のように世界一のミシンメーカーであるが、同時に全米に1,600のセールスショップをもち、家庭電器、布地、家具など関連商品多数を取り扱う大規模な小売業でもあり、約1,300台のMDTS端末を導入し大きな効果を挙げている。

日立製作所は、POSシステムの開発、生産及び販売体制強化のため、シンガー社と提携し、国内での小売業の業務ニーズを踏まえてその普及を図っている。売場に設置されるMDTSは従来のレジスタ機能と情報収集機能の二つの働きをすることは上述したとおりであるが、売場で発生した取引データは即時に店舗に設置された小形電子計算機に集められ、店舗で直接必要な資料が作成されるとともに、本部の電子計算



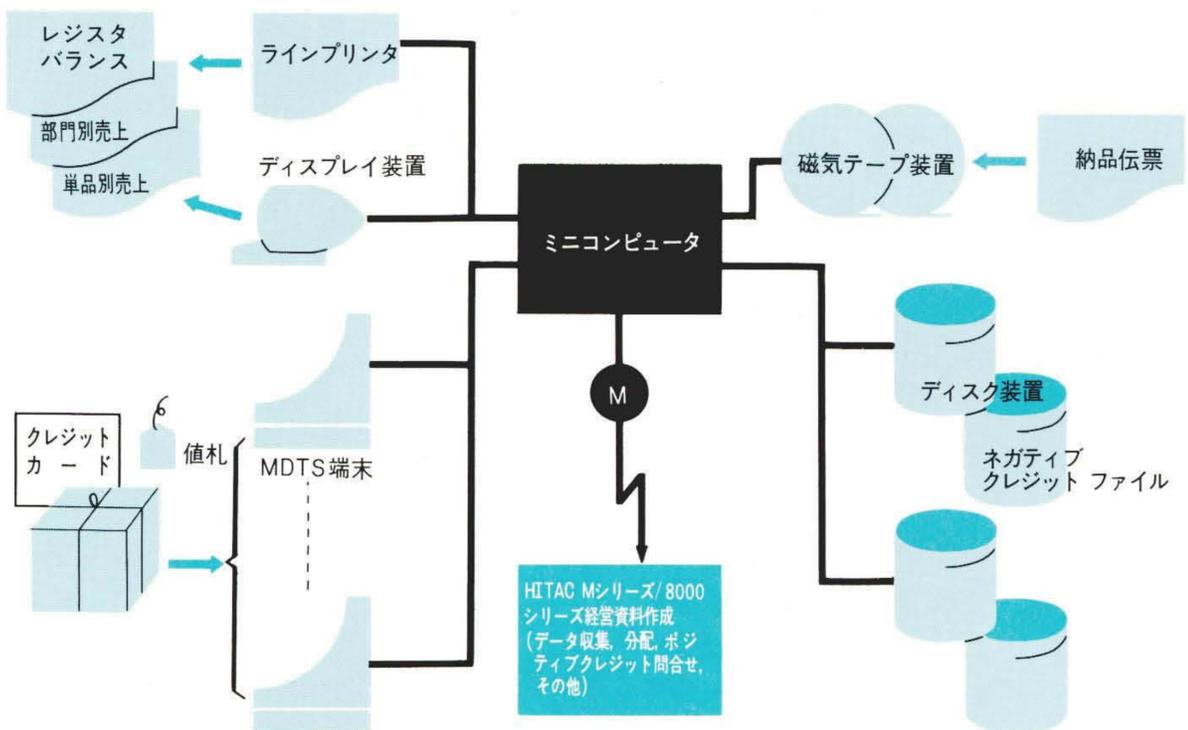
機にも必要なデータが送信され、経営上の資料として活用される。すなわち、MDTS 端末 ↔ ミニコンピュータ ↔ HITAC Mシリーズ/8000シリーズのハイラキ構成のシステムによる店舗情報システムに必須の端末である。

MDTSは豊富な端末が用意されていること、システム構成が目的に従って容易にいろいろ組合せができることが大きな特色である。売場に置かれるMDTS 端末は、(1)使いやすく、取引ごとの一連の操作はランプの指示に基づいて行なえばよく、だれにも容易に取り扱え、しかも操作順序はプログラムによって任意に変更できるので順応性に富む。(2)入力データの各種チェックが行なわ

れるので、データの正確性が保証されている。(3)システム機能に障害が起こっても、端末は独立したキャッシュレジスタとして働く。(4)クレジットカードの承認も短時間で処理できる。(5)値札の読取りには各種あるが、特に光学的文字読取機は使いやすく便利である。

またMDTSは、互いに交換できる基本単位(モジュール)で構成されており、その組合せを変えることにより、またホストコンピュータ(HITAC Mシリーズ/8000シリーズ)との機能分担を図ることにより業態や規模に応じた最適のシステムを選ぶことができる。

注：*A trade mark of the Singer Company



MDTSによるインストアプロセッシングとホストコンピュータ